

私の相高三年間 ^(※1)高普第8回卒 岩本 由輝 ^(※2)

私が相馬高校に入ったのは、1953年4月のことである。まだ、改築前の古い木造校舎だった。何かのはずみで、入学式で宣誓をやらされた。校長は小池元吉先生、「カ」の発音のところを、「クリ」とやるのがやけに印象的で、いまもはっきりと耳に残っている。

1年のクラス担任は松岡重信 ^(※3) 先生、短身ながらまだ若く、非常にきびきびとした張り切った授業をされていた。

クラブ活動は、大野中学校の先輩の大迫徳行 ^(※4) 氏（現相高教諭）の誘いもあって郷土クラブに入った。もともと考古学は好きだったから、それから3年間、ずい分、遺跡の探査や発掘に飛びまわった。おかげで受験勉強はお留守になったが、好きなことがやれて満足だった。クラブの顧問は、日本民俗学の泰斗岩崎敏夫 ^(※5) 先生、その時の御縁は深く、その後も今日まで公私にわたって御指導頂いている。

1年の時の発掘は、自宅近くの相馬市大坪地内にある弥生期住居跡と目されたものであった。掘った結果は、製鉄のための羽口が出たりして、報告書では住居跡としての考察を苦勞して行なったが、今考えてみると、あるいはずっと時代が下ってからのタタラ製鉄の跡ではないかと思う。のちになって、盛岡藩の野田地方から送られた鉬鉄が阿武隈山中で精錬されていることを知ったとき、その思いを深くした。

2年になって、星稔夫 ^(※6) 先生の担任となったが、すでに故人になられたという。星先生は、大学を出てもなくで、大変生真面目な方だったが、どういうものか私たちは、授業中に立ち往生させたりして困らせた。PTAの参観の時などにやるのだから、気の毒なものである。よく佐藤義雄 ^(※7) 先生にそういうことはやってはいかんと、やんわりとお説教をされたが、一向にこりずに何回も同じことをやらかした。

星先生は腕力が強かった。何でも仙台駅で暴れていたアメリカ兵を投げとばしたという武勇伝を持っていた。大そうじの時など、机を一方に押しやって、よく私たちと相撲をやったが、勝てる生徒は少なかった。

2年の夏休みには浪江町の上野原の前方後円墳の発掘をやった。教科書通りの発掘をやったが、いつまでたっても棺に到達しない。予定の日数をこえて、食糧が欠乏して、飢餓線上の苦戦を強いられた末、ついに放棄した。

ところが、あとで粘土を取りに来た近くの農家の人が、本来、棺などはないはずの基部から、しかも2個の棺を人骨とともに発見している。おそらく、盗掘を避ける目的で、かつての人が知恵をめぐらしたのに、教科書通りにボーリングをし、トレンチを入れる私たちが引っかけたのであろう。世の中、なかなか教科書通りには行かないものである。

2年の秋には推されて生徒会長になった。

3年は高沢幹 ^(※8) 先生の受持だったが、さすが老練で、先生いじめの定評のある私たちを適当にいなしながら授業をやられたので、いささか拍子抜けがした。

生徒会長として、男女共学の廃止や原水爆禁止運動に直面したが、いま考えれば特定政党にひきまわされた動きがあって、愉快ではなかった。とにかく自分の頭で判断することができなくなっている仲間をみているのが哀れだった。そうした政党がその後、何度も路線を変えているのをいつも傍観的に眺めながら、当時の彼らに是非そのことについて現在感想を求めたいと考えるのはいささか意地が悪いであろうか。まあ、彼らが浅薄な政治主義に対して、早くから私の免疫性を作ってくれたのだから、感謝すべきかも知れないが。

3年の時には、発掘ではなくて、横穴古墳の壁画の調査をやった。当時なお古墳壁画など、いまのように注目されていなかったから、どうも子供の落書だろうということであまり問題にもされなかった。ただ、東北大学の万葉研究家扇畑忠雄先生が注目され、「真野のかや原」を立証するさいの傍証として使われたので、労苦は報われたような気がした。いまでは、『福島県史』などでも古墳壁画として公認されているが、当時の県の教育委員会の関係者の眼の節穴ぶりは相当なものである。

ところで、私たちが3年になった秋から相高の改築工事が始まり、鉄筋コンクリートの現在の建物の第一期分が着手された。まだ竣工引き渡し前だったが、せめて卒業までに新しい校舎でということで、最後の期末試験がこの建物で行なわれ、そのあとでコンクリートの床に雑巾がけをしたことを覚えている。コンクリートの床に雑巾がけをしたなどというと、滑稽に思われるかも知れないが、何しろ竣工前に使われて貰ったということで、みな大真面目でやったものである。これが相高最後の思い出である。

(※1) 創立80周年記念誌『相中相高八十年』(1978(昭和53)年5月7日発行) 第四部「思い出の記」より。

(※2) 1956(昭和31)年卒。

(※3) 相中第38回、1940(昭和15)年卒。中村出身。相高教諭(昭和25～42年) 社会。

(※4) 相高普第6回、1954(昭和29)年卒。大野出身。相高教諭(昭和43～54年) 国語。

(※5) 相中第25回、1927(昭和2)年卒。中村出身。相高教諭(昭和19～31年) 国語。

(※6) 相中第47回、1948(昭和23)年卒。中村出身。相高教諭(昭和28～47年) 物理。

(※7) 相高教諭(昭和21～36年) 化学。

(※8) 相高教諭(昭和20～32年) 理科。

(転記&※脚注 村山)